

STAR

融雪剤散布機

製品コード 93027

型 式 JUS 2030

取扱説明書

“必読” 機械の使用前には必ず読んでください。

STAR-農機株式会社

このたびは、スター農機の融雪剤散布機をお買い求めいただき、まことに有難うございました。

JUS 2030は小型、軽量で取扱いに優れた高性能な融雪剤散布機です。安全、快適にお使いいただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

目 次

安全にお使いいただくために	1
各部の名称	2
エンジンをかける前の点検	4
エンジンの始動と停止	5
運転操作	6
散布作業	7
保守・点検 日常点検	8
定期点検	9
点検・整備と調整のしかた エンジン	10
本体	15
給油	18
長期保管について	19
電気配線図	19
性能・諸元表	20
保証について	20
散布量曲線	21
ブロワタイプとスピナタイプの切り替え	22

安全にお使いいただくために

■ 安全運転の心得

安全運転はあなたのためです。次の事項には特に注意をはらい、事故のない快適な作業を行なってください。

- この取扱説明書を読み、正しい操作を十分御理解のうえ自分で操作してください。
- 簡単な操作でご使用できますが、まちがいに取扱う為に各種操作になれてください。

■ 作業前の注意

- 作業する時は、防寒用の服装で身仕度をしてください。
- 公道での走行は行なわないでください。
- 車庫内など換気の悪い場所でエンジンを始動する時は、ガス中毒を起こすことがありますので、換気に十分注意し、できるだけ早く車輛を外へ出してください。
- 燃料、エンジンオイルなどを点検、補給するときは、必ずエンジンを停めてください。
- 運転席以外で車輛を始動、運転することはやめてください。
- 運転者以外の者を車輛に乗せてはいけません。



注 意

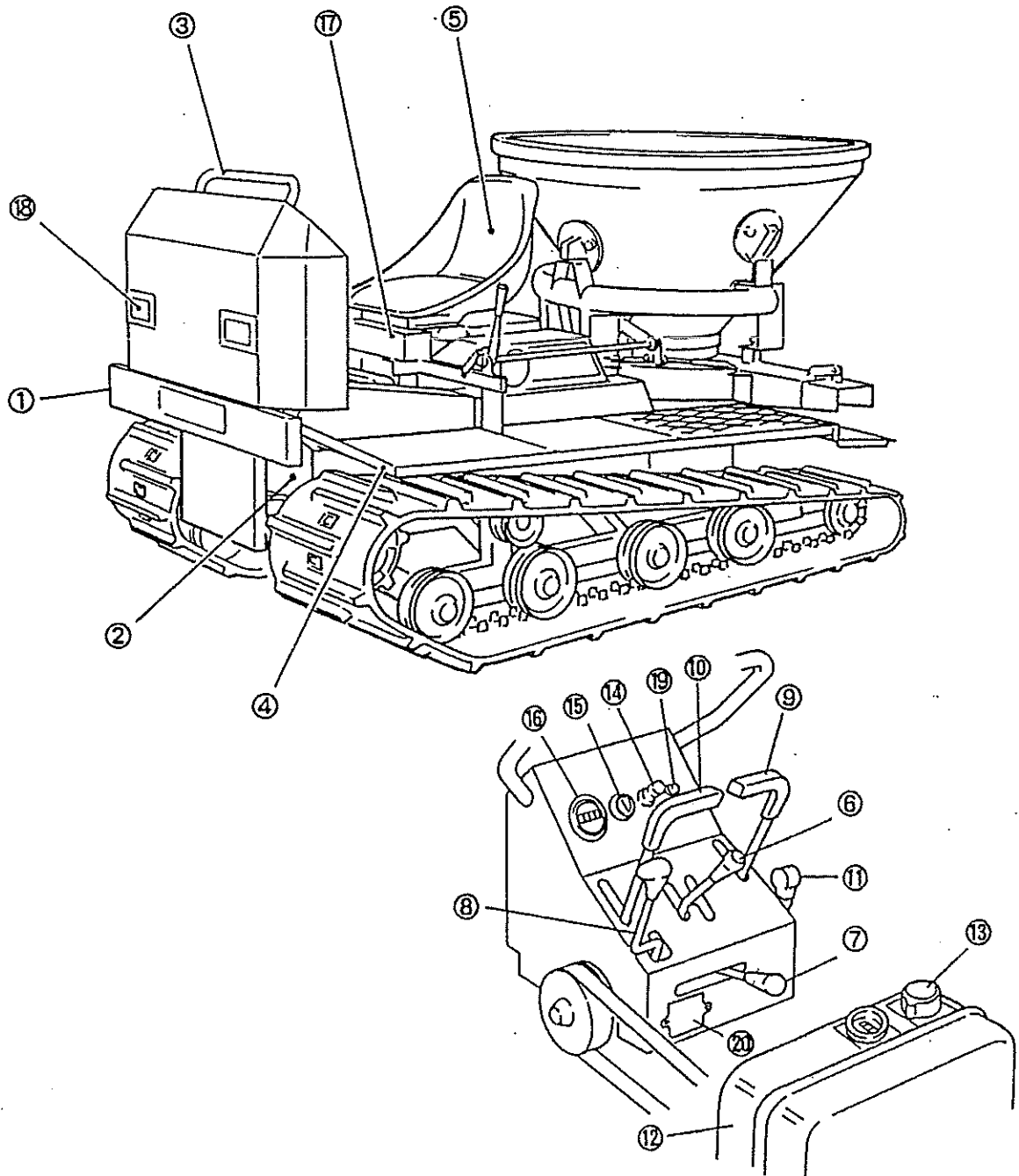
ステップに人や融雪剤等を乗せての走行は絶対しないでください。

■ 駐車、停車時の注意

- 駐車するときは足場のよい平坦地を選んでください。やむをえず斜面に駐車しなければならない時は、斜面に直角に止め、エンジンを停止させ、チェンジレバーを前進又は後退に入れ、走行クラッチレバーも「入」にしてください。
- 作業が終了してエンジンを停止させる場合は、燃料バルブも閉じてください。

各部の名称

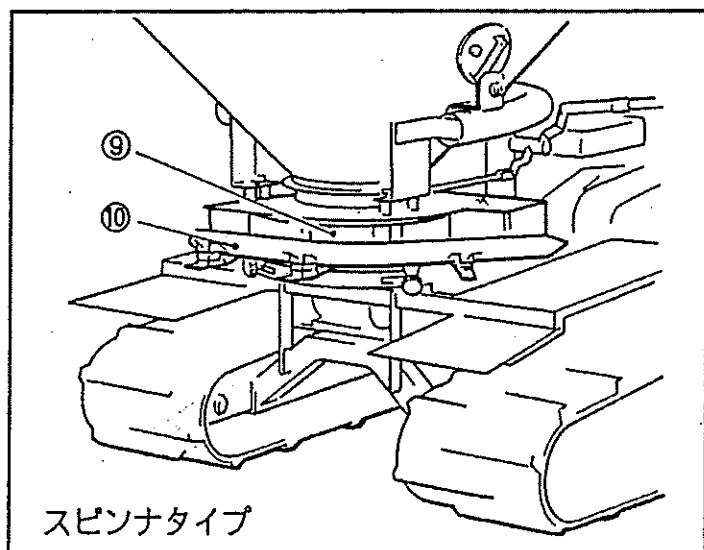
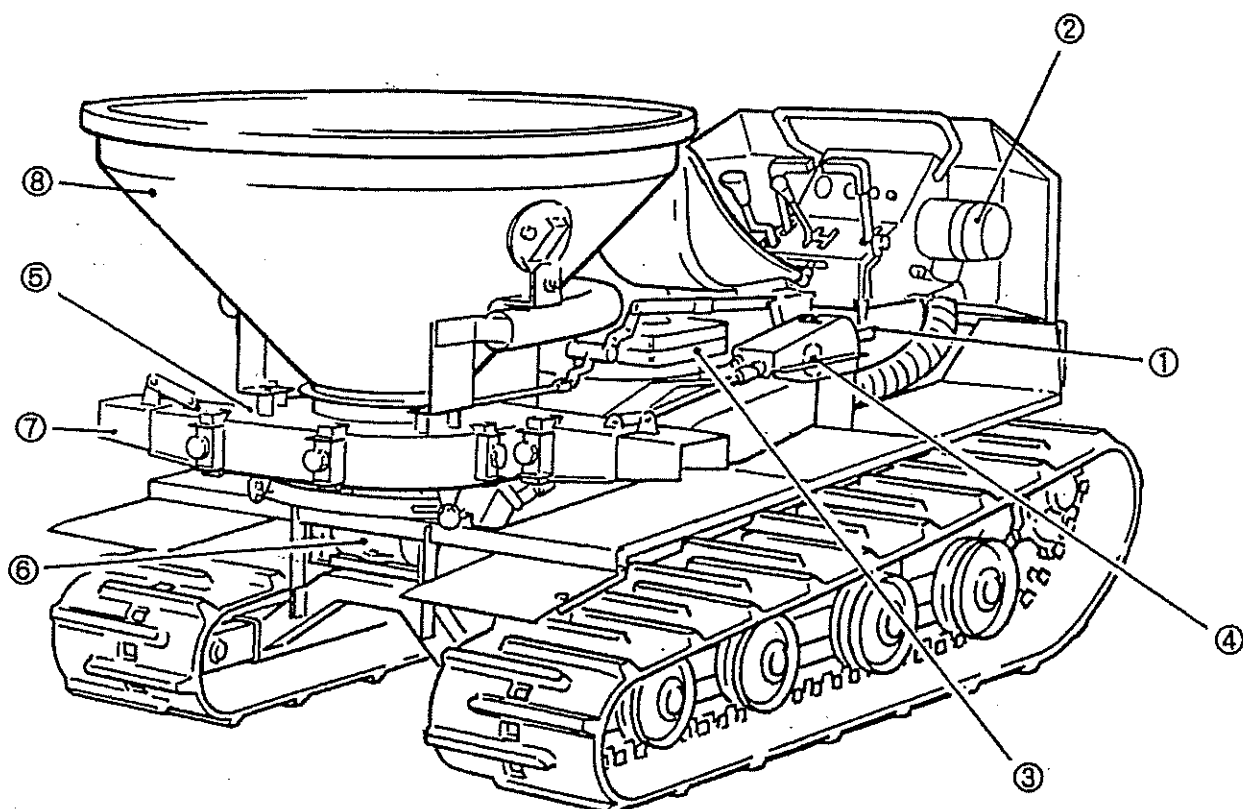
- | | |
|------------------|-------------|
| ① バンパ | ⑪ スロットルレバー |
| ② 走行ミッション | ⑫ 燃料タンク |
| ③ ハンドル | ⑬ 燃料給油キャップ |
| ④ ステップ | ⑭ ライトスイッチ |
| ⑤ シート | ⑮ キースイッチ |
| ⑥ 変速レバー | ⑯ アワメータ |
| ⑦ 副変速レバー | ⑰ バッテリ |
| ⑧ 走行クラッチレバー | ⑱ 前照灯 |
| ⑨ サイドクラッチレバー (右) | ⑲ オイルランプ |
| ⑩ サイドクラッチレバー (左) | ⑳ ゲージプラグ点検扉 |



- ① 散布クラッチレバー
- ② 第一エアクリーナ
- ③ 第二エアクリーナ
- ④ ガソリンフィルタ
- ⑤ ブロワケース

- ⑥ ギヤボックス
- ⑦ キャップ
- ⑧ ホッパ
- ⑨ ブロワ
- ⑩ 散布案内板

ブロワタイプ



エンジンをかける前の点検

点検は平坦な場所で本体を水平にし、エンジンを停めて行なってください。

○ ボルト・ナット類がゆるんでいると本機の寿命を著しく短くし、又本機損傷の原因となりますので、ゆるみがないか良くチェックしてください。

○ ガソリンの点検

使用ガソリン 無鉛ガソリン

タンク容量 15 ℓ

燃料タンク上面のゲージを見て少ない場合は補給してください。

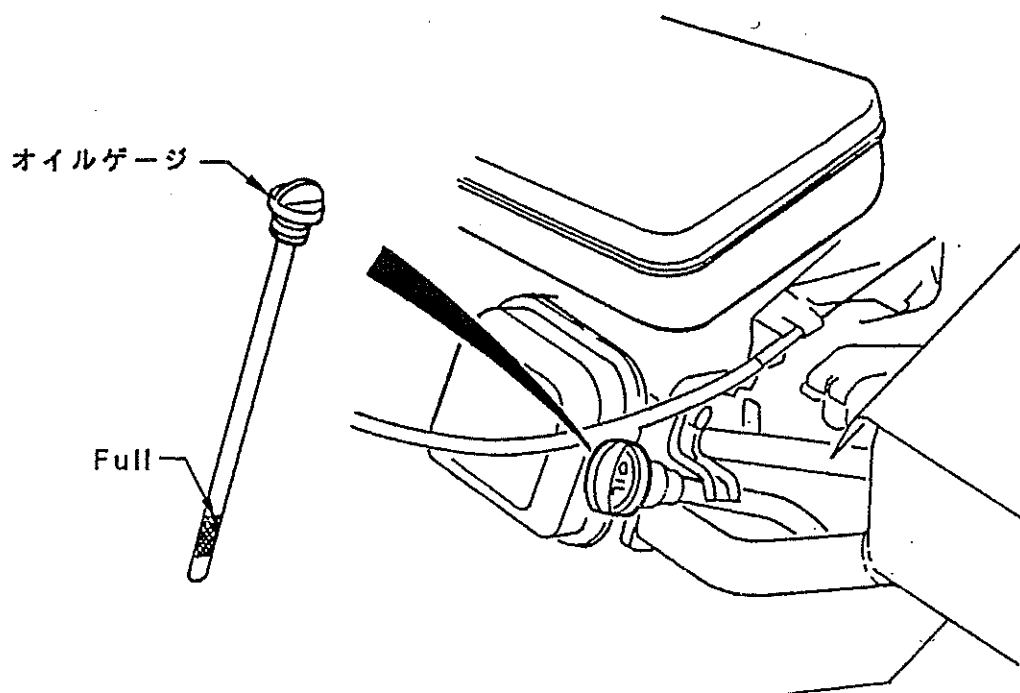
○ エンジンオイルの点検

オイルゲージを抜き先端のオイルを拭き取って再びゲージを一杯に差込んでから抜いて見てください。

オイルゲージの「FULL」の位置が適量です。不足の場合は補給してください。入れ過ぎた場合は適量まで排出してください。(エンジンオイルは 10W-30、容量 1.4 ℓ)

! 注 意

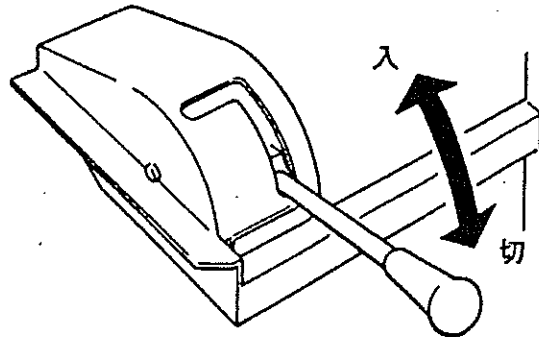
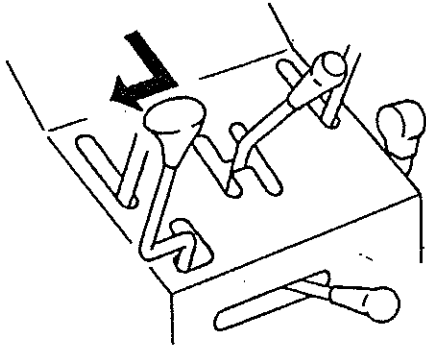
オイルフィルタ交換時、オイルは 1.6 ℓ 入れて下さい。



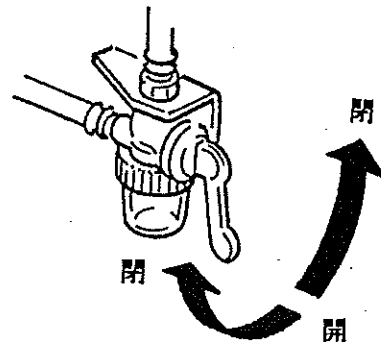
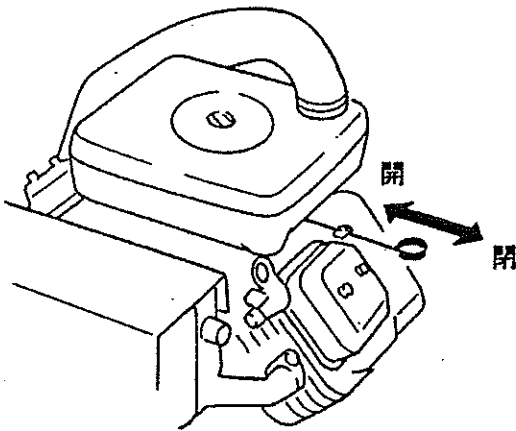
エンジンの始動と停止

■ 始動方法

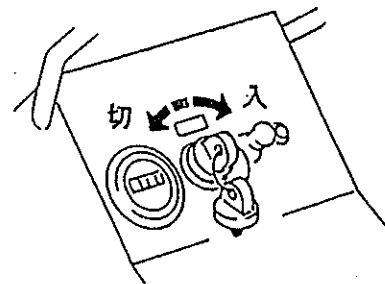
1. 走行クラッチレバーを「切」にし、チェンジレバーを中立にします。
2. 散布クラッチレバーを「切」にします。



3. 寒い時やエンジンのかかりにくい時にはチョークレバーを引きます。
4. 燃料バルブを開きます。



5. エンジンスイッチを「スタート」の位置へ廻します。始動しエンジンが暖まりましたらチョークを徐々に戻します。



■ 停止

1. エンジンスイッチを「切」の位置にします。

運 転 操 作

■ 本機を発進させる場合

1. 運転は必ず運転席にすわり、周囲に危険がないか確認し操作してください。
2. スロットルレバーを **高** にしてください。
3. 変速レバーで速度を選びます。

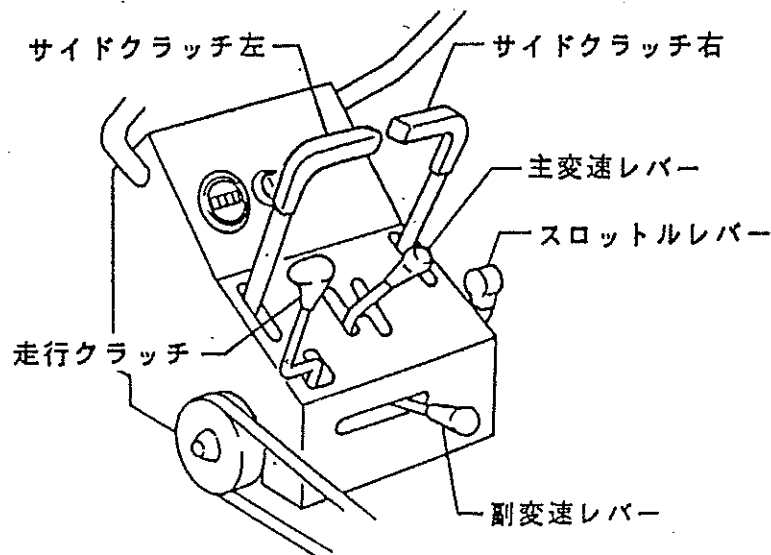
本機は、前進6速、後進2速から速度を選択することができます。

	副 変 速	主 変 速	走 行
速 度	低 速	1 (前進)	3.3km/h
		2 (前進)	4.4km/h
		3 (前進)	5.7km/h
		R (後進)	3.3km/h
	高 速	1 (前進)	5.4km/h
		2 (前進)	7.0km/h
		3 (前進)	9.1km/h (移動用)
		R (後進)	5.4km/h

まず、副変速レバーを低速又は、高速に入れます。

次に、主変速レバーを前進1, 2, 3又は、後進Rに入れます。

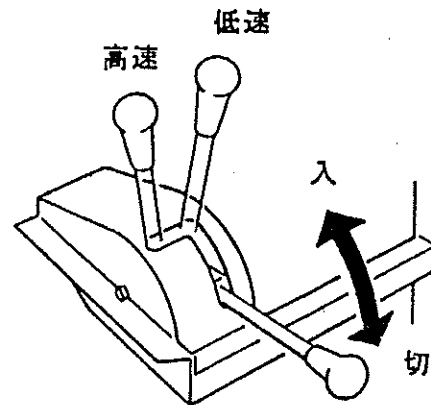
4. 走行クラッチを徐々に **入** にしますと、発進します。
(急激な操作をしますと急発進し危険です！絶対に行なわないでください。)
5. 右、左へ曲る場合は曲りたい方向のサイドクラッチを手前に引いてください。その方向のクローラにブレーキがかかります。
6. 停止の場合は、走行クラッチレバーを **切** にしてください。
7. 本機にはライトが装備されています。必要に応じて点灯してください。



散 布 作 業

■ 融雪剤散布作業を行なう場合

1. シャッタを全閉（散布クラッチレバー **切**）にし、ホッパに融雪剤を入れます。
2. ブロワタイプ使用時は散布クラッチレバーをまず低速に入れ、さらに高速へと入れます。スピナタイプ使用時は、粒状肥料は低速、その他融雪剤は高速で散布してください。（ブロワタイプ ⇄ スピナタイプの切替は22ページ参照。）
3. 散布量は21ページの散布量曲線を参照して、シャッタ開度を決めてください。



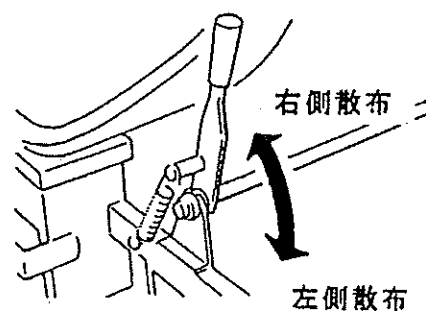
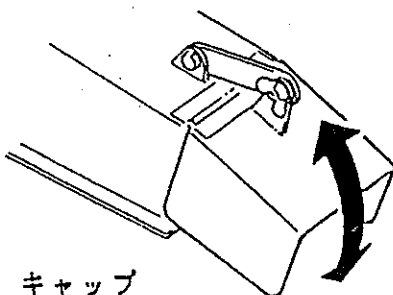
散布クラッチレバー

！ 注 意

- ① 落下量は融雪剤の種類により変わりますので、実際の落下量を測定してシャッタ開度を決めますとより正確な散布ができます。
- ② 本機のホッパ積載量は200kgです。それ以上積載しますと走行ミッション、ホッパフレーム等に無理がかかり、機械損傷の原因となりますので絶対に積載しないでください。
- ③ 散布クラッチレバーはゆっくり操作してください。乱暴に扱いますと機械損傷の原因となります。

■ ブロワタイプの散布作業

1. 散布方向を右又は、左に変えることができます。運転席左側の「切替レバー」で操作します。
2. 散布が終了したら融雪剤をブロワケース内に残さない様にブロワを空回転させ左右各々に排出してください。
3. ブロワ及びブロワケース等は消耗品となっておりますので、時々点検し、摩耗が進んでいたら、部品の交換をしてください。



保 守・点 検

■ 日常点検

いつも安心して使用するためには毎日の点検・整備が必要です。

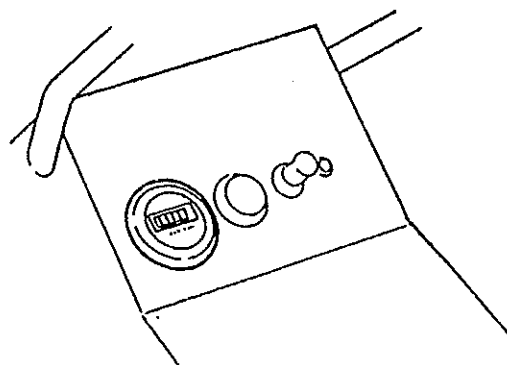
忘れずに自分自身で行なってください。

1. エンジオイル	規定量入っているか オイルの漏れはないか
2. ガソリン	残量は十分か ガソリンの漏れはないか ガソリンフィルタに水がたまっていないか
3. 第1エアクリーナ 4. 第2エアクリーナ	汚れすぎていないか
5. 異常箇所	前日悪かった所
6. 各部の締付け	ボルト、ナットにゆるみはないか
7. 各種のレバー	作動は正常か
8. サイドクラッチ	クラッチ及びブレーキの効きは十分か サイドクラッチレバーの引きしろは適当か
9. ホッパ	ホッパ底に融雪剤が残っていないか ホッパ周辺の融雪剤を取除く
10. 走行ミッション 11. ギヤボックス（散布用）	オイルの漏れはないか 規定量入っているか

■ アワメータ

本機には、アワメータが装備されています。

点検、清掃等の時間のめやすとしてください。



■ 定期点検

定期点検は安全と性能を維持する為にぜひ必要なことです。

指定された点検・整備は完全実施してください。

点 検 項 目		点 検 時 期 と 内 容	
エンジン	エンジンオイル	交 換	初回のみ5時間 以後運転25時間毎
	第1エアクリーナエレメント	清 掃	毎日数回
		交 換	汚れが著しい場合は交換
	第2エアクリーナペーパーカートリッジ	清 掃	毎日
		交 換	汚れが著しい場合は交換
	スパークプラグ	清 掃	毎年シーズン始め
	燃料タンク	燃料抜き	毎年シーズン終り
		洗 浄	3年毎
	燃料チューブ（ゴムホース）	交 換	3年毎
	燃料ポンプエアフィルタ	清 掃	毎年シーズン終り
	スロットルレバー	点 検	毎年シーズン始め
	スロットルワイヤ	点 検	毎年シーズン始め
走行部	クローラ	張り調整	毎年シーズン始め
	走行クラッチレバー	点 検	毎年シーズン始めと終り
	主変速レバー	点 検	毎年シーズン始めと終り
	副変速レバー	点 検	毎年シーズン始めと終り
	サイドクラッチレバー（右）	点 検	毎年シーズン終り
	サイドクラッチレバー（左）	点 検	毎年シーズン終り
	走行ミッションオイル	点 検	毎年シーズン終り
		交 換	毎年シーズン始め
その他	ウェッジベルト	点 検	毎年シーズン終り
	ギヤボックスオイル	交 換	毎年シーズン終り
	Vベルト（散布用2ヶ所）	点 検	毎年シーズン終り
	バッテリー液	点 検	毎年シーズン始めと終り
	バッテリー	充 電	長期保管中は1ヶ月に1回

点検・整備と調整のしかた

点検・調整は平坦な場所で必ずエンジンを停止して行ないます。

工具はシート下の工具箱にあります。点検・調整にはかかすことのできないものです。

■ エンジン

1. エンジンオイルの点検

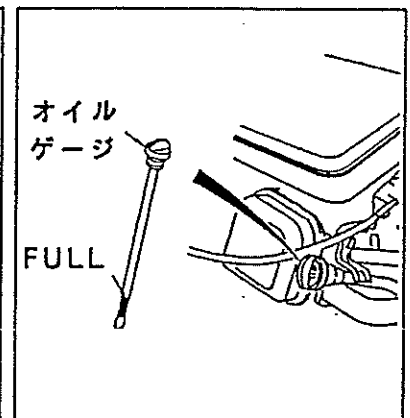
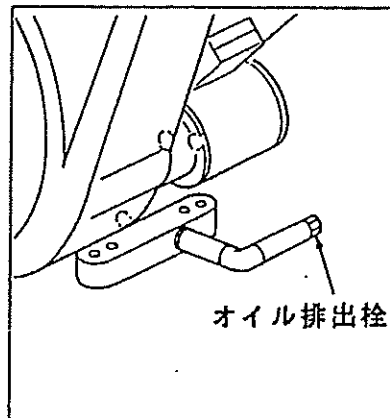
エンジンオイルの量はエンジンの始動前に点検し、少なくとも運転5時間毎に必ず点検補給してください。

2. エンジンオイルの交換

最初の運転5時間目に第1回のオイル交換をし、以後運転25時間毎にオイル交換をしてください。

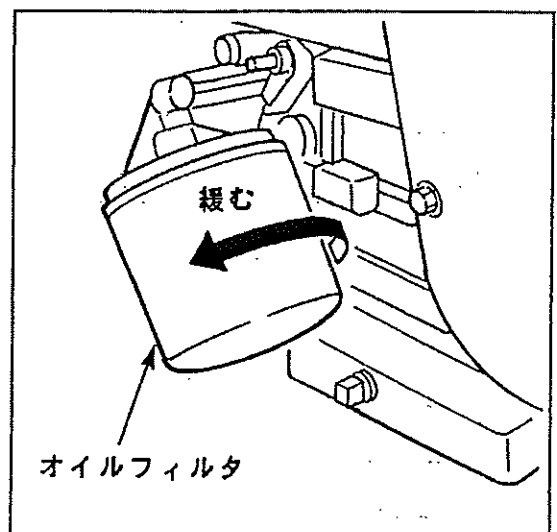
交換手順

- 1) オイルゲージをはずす。
- 2) 排出栓からオイルを抜く。
- 3) 排出栓を締める。
- 4) 新しいエンジンオイル
10W-30を注入。
(容量1.4ℓ)
- 5) オイルゲージを締める。



3. オイルフィルタの交換

オイルフィルタは運転100時間毎に交換してください。新しいフィルタを取付ける前にフィルタガスケットに新しいオイルを少量塗ってから取付けてください。フィルタアダプタにガスケットが当たるまで手で軽く締め、さらに3/4回転締めてください。エンジンを始動させ、30秒程度運転後、エンジンを止めオイルレベルや漏れが無いかを点検してください。



! 注意

オイルフィルタ交換時、オイルは1.6ℓ入れてください。

4. 第1エアクリーナの清掃

ダストパンとエレメントは毎日清掃してください。

！ 注 意

埃のひどい条件下では1日数回早目に清掃してください。

1) ダストパンを外す。(ダスト分離筒付)

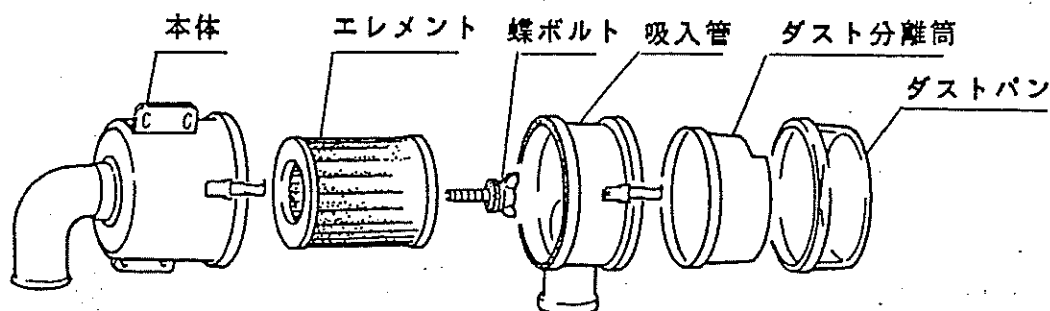
2) 吸入管を外す。

3) 蝶ボルトを外し、エレメントを外す。

● ダストパンの清掃 — ダストパンよりダスト分離筒をはずし、埃を捨ててください。

● エレメントの清掃 — 平らな面の上でたたき、埃を落してください。

汚れのひどい場合は新品と交換してください。



5. 第2エアクリーナの定期清掃

オイルを含ませた筒型ウレタンフィルタは毎日下記の手順で清掃してください。

！ 注 意

埃のひどい条件下では早目に手入れを行ってください。

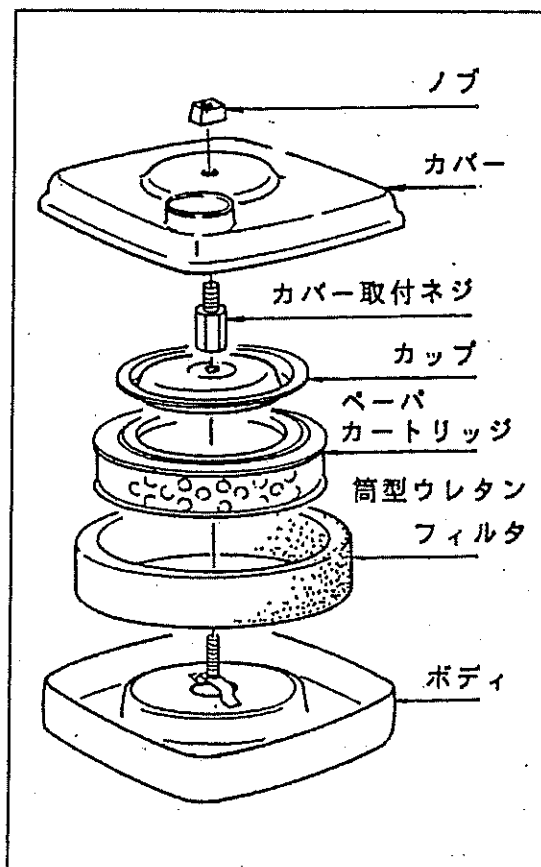
1) ノブとカバーを外す。

2) ペーパーカートリッジの周囲に取付けられた筒型ウレタンフィルタを引き上げ取外す。

3) a. ウレタンフィルタを灯油で洗浄する。

b. ウレタンフィルタをよく絞り、充分に乾燥させる。

c. 約30ccのエンジンオイルをウレタンフィルタの周囲に注ぎ、オイルが全体に付着するように絞る。



4) 筒型ウレタンフィルタをペーパーカートリッジの周囲に元通り取付ける。

ナット、カバー等を確実に締付ける。

ペーパーカートリッジは20時間毎に取外し、平らな面の上でたたき埃を落すか、汚れのひどい場合は新品と交換する。

！ 注 意

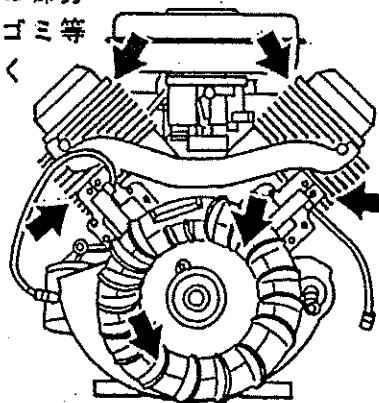
1. ペーパーカートリッジにオイルを含ませないでください。また、高圧エアをかけないでください。
2. カップ上のワッシャを紛失せぬように、また破れた場合には新品と交換してください。

6. 冷却システムの清掃

長時間のご使用により冷却フィンの中にほこりや異物がつまることがあります。

そのまま作業を続けるとひどいオーバーヒートを起こしてエンジンを痛めますのでブロウハウジングを取りはずし、定期的に清掃してください。

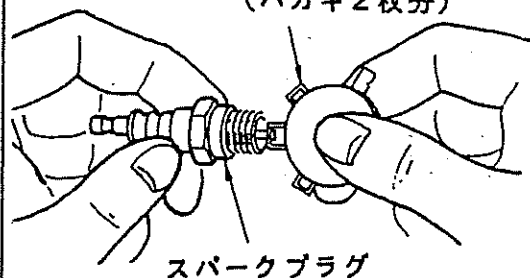
これらの部分
の埃、ゴミ等
を取除く



7. スパークプラグの点検・清掃

運転 100 時間毎にカーボンを除去し、間隔を 0.76 ミリに調整してください。

フィラーゲージ 0.76mm
(ハガキ 2 枚分)



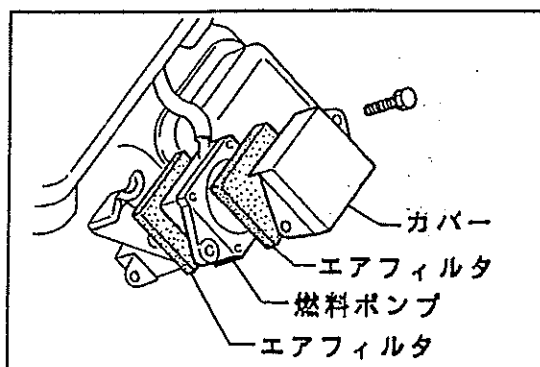
スパークプラグ

！ 注 意

サンド・ブラスト・クリーナ（金剛砂吹つけ式クリーナ）はエンジン内部に悪影響を与えることがありますので使用しないでください。

8. 燃料ポンプエアフィルタの清掃

- 1) 六角ボルトとカバーを外す。
- 2) 燃料ポンプの上下に取付けられたエアフィルタを取外し、灯油で洗浄する。
- 3) エアフィルタをよく絞り充分に乾燥させ、元通り取付ける



8. キャブレタ調整

キャブレタの調整は、分解以外にも燃料・温度・高度・負荷等が変った場合、状況に応じた調整が必要であります。

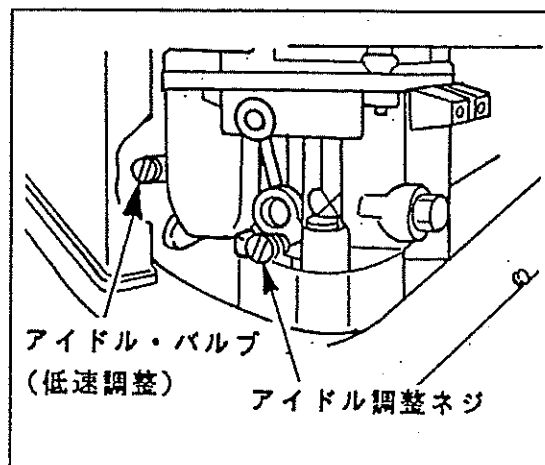
1) 予備調整

アイドル・バルブを時計方向に回して軽く全閉し、再び1½回転だけ開きます。以上の予備調整が終ればエンジンを始動し、暖機運転を行ない、次の最終調整をします。



注 意

キャブレタを調整する時は、必ずエアクリーナを取付けて行なってください。



2) 最終調整

A. アイドル・バルブ調整 (低速調整)

エンジンを始動し、暖機運転後、作業機のスピードコントロールレバーを「低速」とする。キャブレタのスロットル・レバーを手でアイドルストップに当たるまで押さえ、アイドル調整ネジを回してアイドル回転数1000～1200rpmとする。

スロットル・レバーを押さえたまま、アイドル・バルブをゆっくりと時計方向に（稀薄）エンジンの回転がミスしたり、回転が落ちはじめるところまで回す。この位置から反時計方向に3/4回転アイドル・バルブを戻してください。

B. 加速テスト

作業機のコントロールレバーを「低速」から「高速」に操作してください。

上記調整で十分な加速が得られます。もし、加速状態が不良であればアイドルバルブを約1/8回転、反時計方向に回して再度加速テストをしてください。

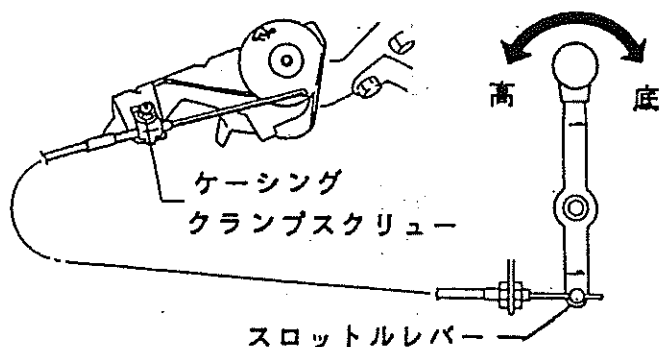
9. スロットルレバー調整

エンジンの常用運転は必ず 1500～3500rpm 以内で行なってください。アイドル回転数は 1500rpm です。



注 意

最高回転数は規定された回転数 3500rpm より高回転にさせないでください。



作業機のスロットルレバーを「低速」に合わせる。この時、キャブレタのスロットルレバーがアイドル調整ネジに当たっていることが必要です。アイドル調整ネジに当たっていなければケーシングクランプスクリューを緩めコントロールケーシング及びワイヤを動かして調整し、ケーシングクランプスクリューを締めてください。



注 意

作業機のスロットルレバーが「低速」でアイドリング回転時、キャブレタのスロットルレバーが、必ずアイドル調整ネジに当たっていなければなりません（前図参照）

10. 調整値一覧

スパークプラグ・ギャップ	0.76mm
マグネット・エアーギャップ	0.25～0.36mm
バルブ・クリアランス	吸入 0.10～0.15mm
	（バルブスプリング取付時・エンジン冷却時） 排気 0.18～0.23mm
スパークプラグ品種	チャンピオン RC12YC



注 意

- 正しい工具とエンジンに関する完全な知識をお持ちでない限り、大がかりなエンジン修理は行なわないようお願いします。
- 修理や調整を行なう際、安全のためにバッテリーの（－）を必ず外してください。

■ 本体

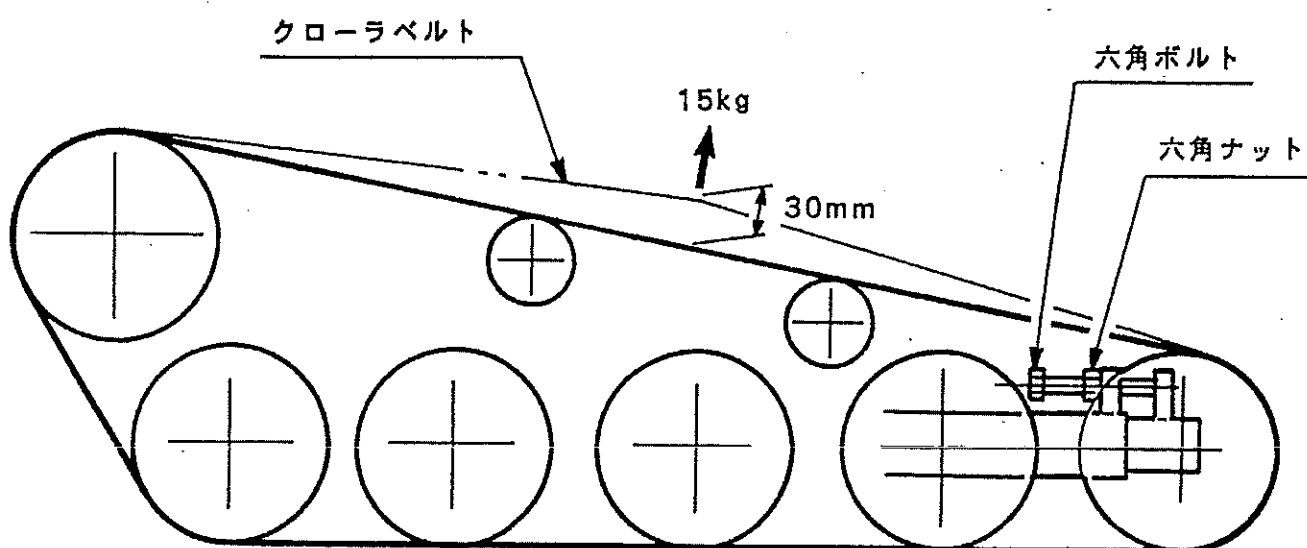
1. クローラの張り調整

クローラの中央部をクローラベルトが張るまで持ち上げて（約15kgの力）その高さ（たわみ量）が30mmになるのが標準です。

この調整は六角ボルトの押し（張り）、引き（ゆるみ）で行ないます。六角ナットを緩め六角ボルトの押し又は引きで張りを調整した後は六角ナットを固く締め付けてください。

！ 注意

強く張りすぎないようにします。

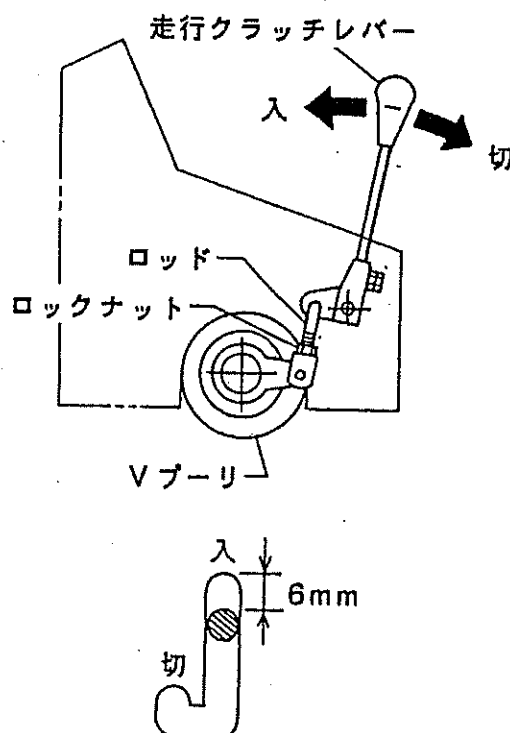


2. 走行クラッチレバーの調整

走行クラッチレバーが「切」の状態では必ず走行が止まり、「入」の状態ではクラッチが入るようにします。

● 調整方法

走行クラッチレバーが「入」の状態、パネル溝とレバーの間のすきまが6mm以上になるよう、ロッドのネジでロッドの長さを調整してください。

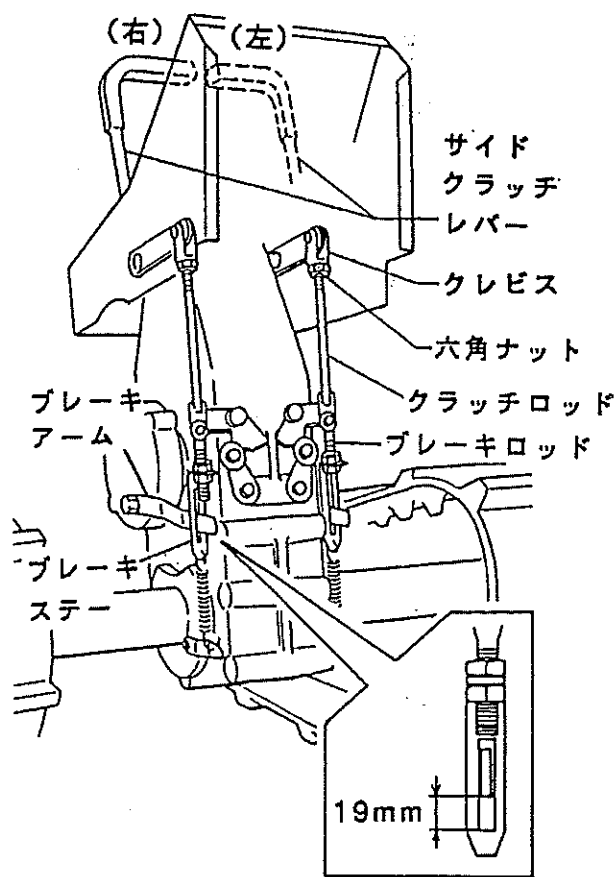


3. サイドクラッチレバー（右）（左）の調整

サイドクラッチの調整は、レバーを戻した状態で、パネル溝とレバーの間のすきまが6mm位になるよう、クラッチロッドの長さを調整します。

ブレーキの調整は、クラッチが確実に切れてから作動するように、ブレーキアームを持ち上げブレーキをかけた状態にし、ブレーキステーとのすきまが19mmになるよう、ブレーキロッドの長さを調整します。

ブレーキシューが減ってきて、パネル溝の引き代が少なくなった場合、更にブレーキロッドを調整します。



4. Vベルトの点検と調整

Vベルトの適正なたわみ量は下図の通りです。

● Vベルトの張り調整

- 1) 3V-750 ナット①でロッド①を上下させ、張りを調整します。

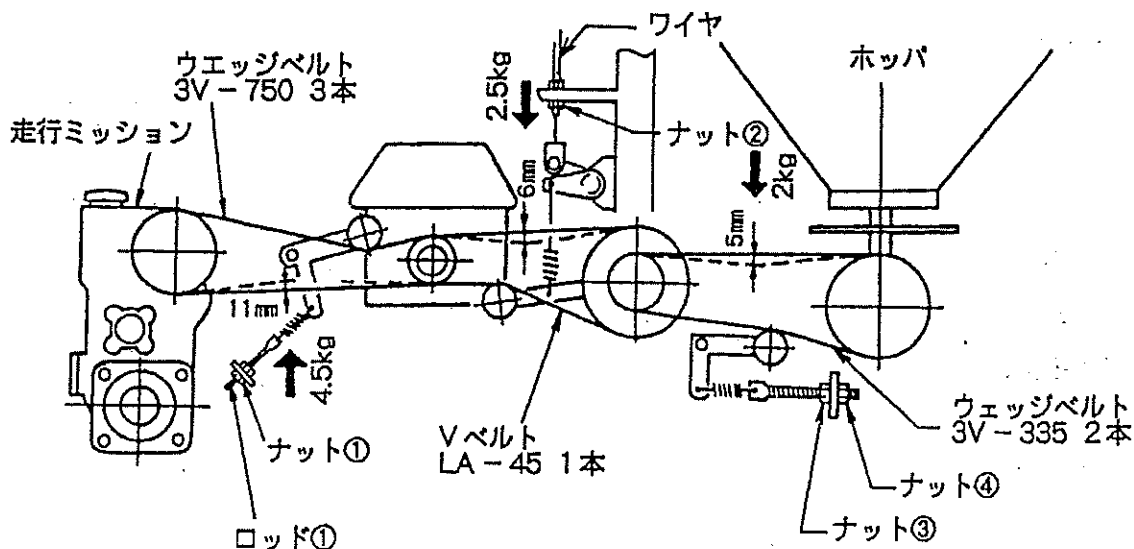
調整後はナットを固く締め付けてください。

- 2) LA-45 ナット②を緩め、クレビスを上下させ、張りを調整します。

調整後はナット②を固く締め付けてください。

- 3) 3V-335 ナット③を緩め、ナット④で張りを調整します。

調整後はナット③を固く締め付けてください。



5. 散布クラッチレバーの調整

散布クラッチレバーの **入** **切** 操作で確実にブロワが回転・停止するよう調整します。

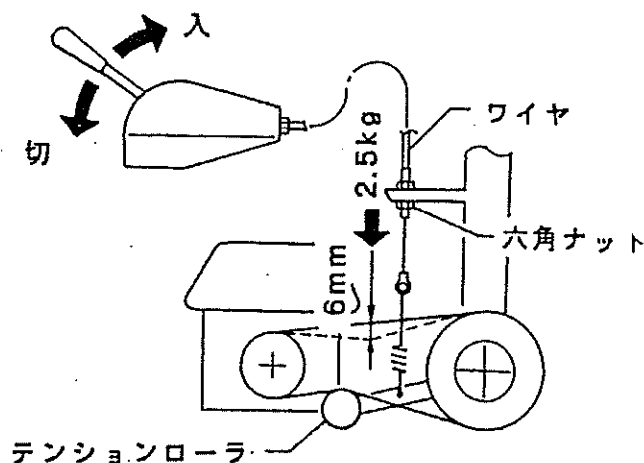
レバーが **入** の位置でテンションローラがVベルトを張ります。

その時のたわみ量は図示の通り 2.5kg の力で 6mm が標準です。

この調整は六角ナットをゆるめ、ワイヤの長さを調整します。

レバーが **切** の位置ではVベルトがスリップし、回転が停止しなければなりません。

Vベルトがゆるんでもスリップしない場合は、エンジンブーリ周りのテンションの押えを調整してください。調整後は六角ナットを固く締付けてください。



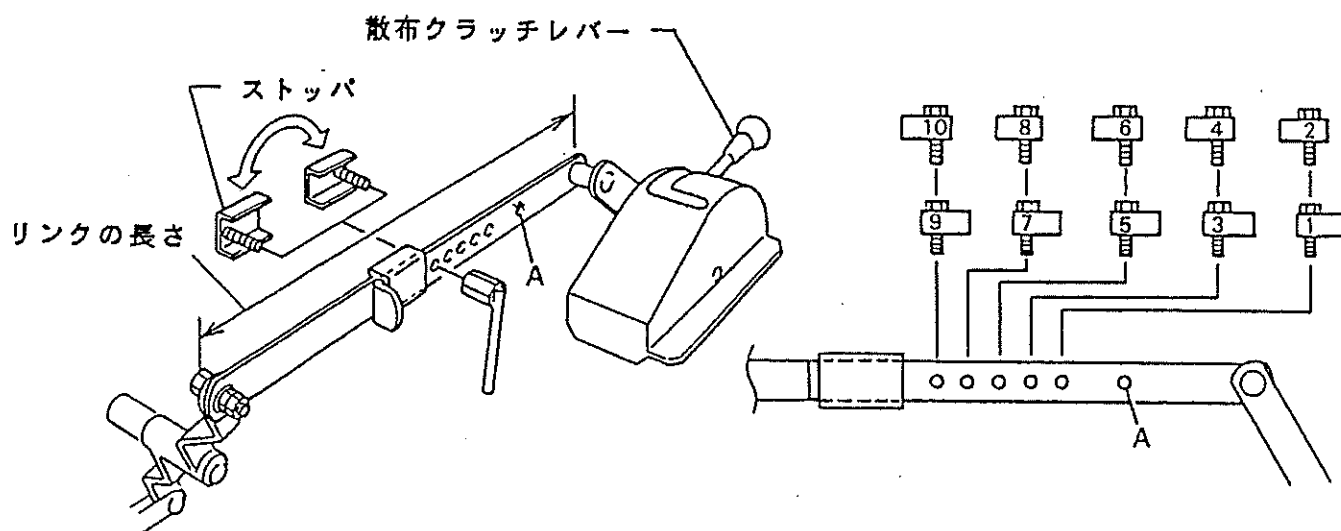
6. シャッタ開度（ストッパの使い方）

○ シャッタ開度はストッパの位置で変更できます。

リンクには6個の穴がありストッパを取りつける時の向きと位置で、シャッタ開度を全閉から全開まで10段階に微調整できます。

○ Aの穴にストッパを組みつけると（どちら向きでも）、シャッタは全閉状態となりレバーを操作してもシャッタは開きません。

○ シャッタのリンク取付部にも、5個の穴がありますが真中の穴を使用します。



7. 給 油

走行ミッションのオイルは、年1回（毎シーズン前）交換してください。交換手順は、ドレンプラグと給油栓を外し、オイルを抜いてからドレンプラグを締めます。

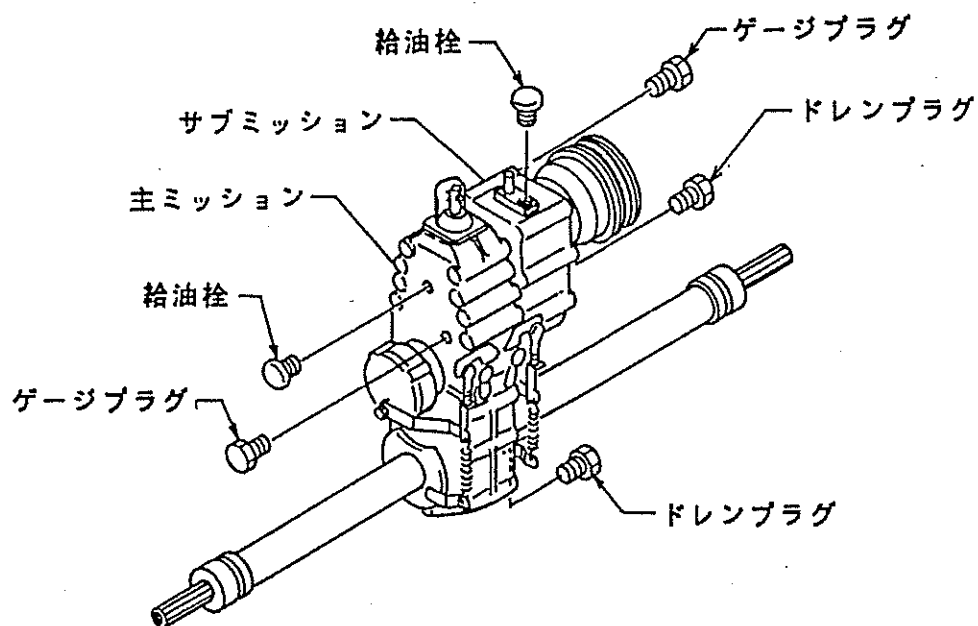
次にオイルゲージプラグを外し、オイルをゲージプラグまで入れ、給油栓とレベルプラグを締めます。

- オイルはギヤオイル# 80をご使用ください。

主ミッション ……4.2 ℓ

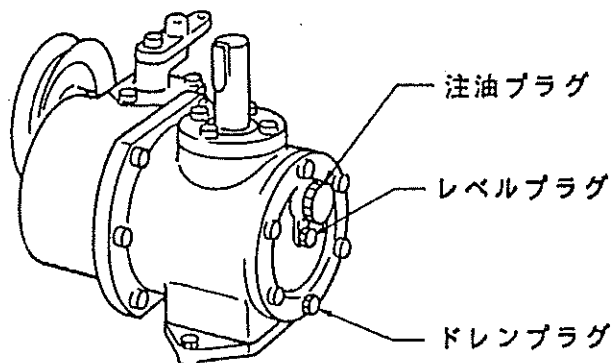
サブミッション ……0.6 ℓ

- 注油の際は、先にホースのついたジョッキを使うと注油が楽に行えます。



8. ギヤボックスのオイル交換

- 1) 給油栓をはずす。
- 2) 排出栓をはずしオイルを抜く。
- 3) 排出栓を締める。
- 4) 新しいギヤオイルをゲージプラグまで入れる。
- 5) 給油栓を確実に締付ける。(ギヤオイル# 80番、適量0.9 ℓ)



ギヤボックス

長期保管について

1. ガソリン

- 1) 30日以上格納するときには、燃料タンクの底のドレンプラグを外し、燃料を完全に抜きます。
- 2) 燃料フィルタを外しホース内の燃料を抜きます。
- 3) エンジンをかけ、キャブレタ内等の燃料がなくなって停止するまで回しておきます。

2. エンジンオイル

エンジンの暖かいうちに全部抜きとり、新しいオイルを規定量入れます。

3. 清 掃

- 1) シリンダヘッドの冷却フィン、ブロワ、ハウジングのほこりや異物を取り除きます。
- 2) 散布部のホッパ底に融雪剤など残さないよう清掃します。
- 3) エアクリーナも清掃します。
- 4) 肥料、融雪剤が残っていると、サビ・腐食の原因となります。

4. ギヤオイル交換

ホッパ下のギヤボックスのオイルを抜き、新しいオイルを入れます。

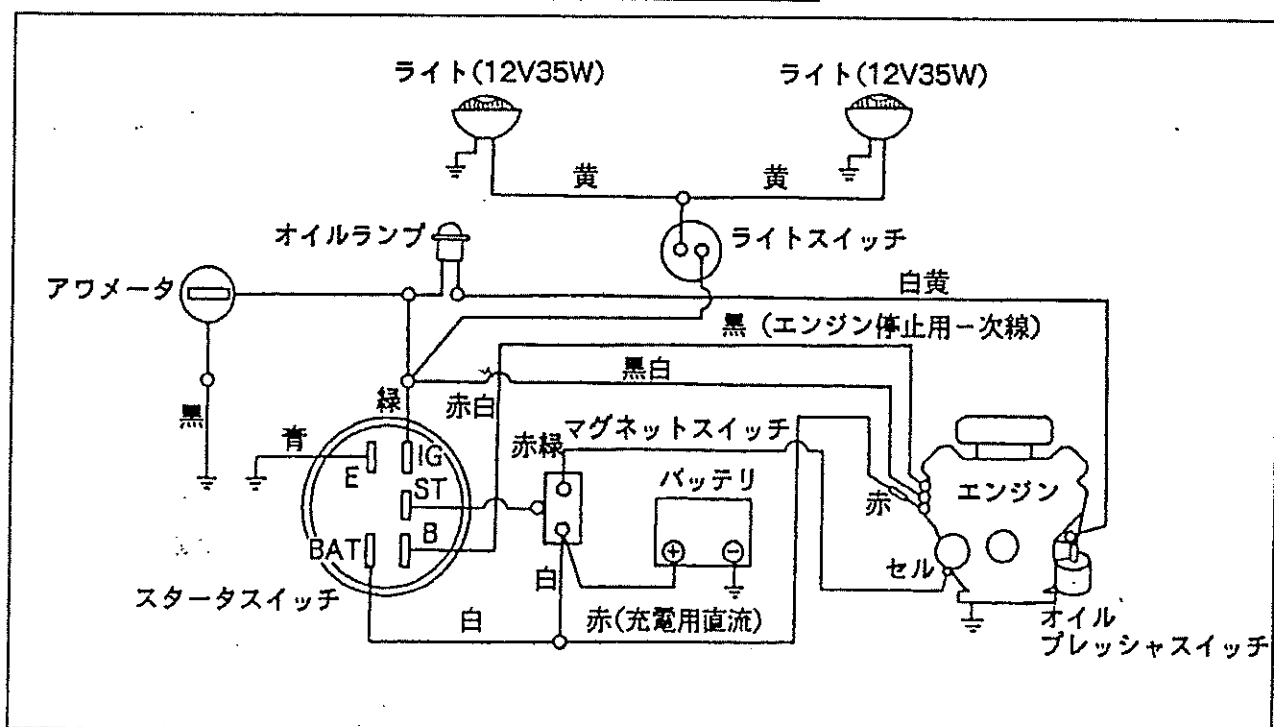
5. 給 油

各レバー類の支点部にオイルを給油してください。

6. 保管場所は、屋内の湿気、ほこりの少ないところに保管して、さらに覆いをかけてください。

7. バッテリーのケーブルを外しておきます。

電 気 配 線 図



性能・諸元表

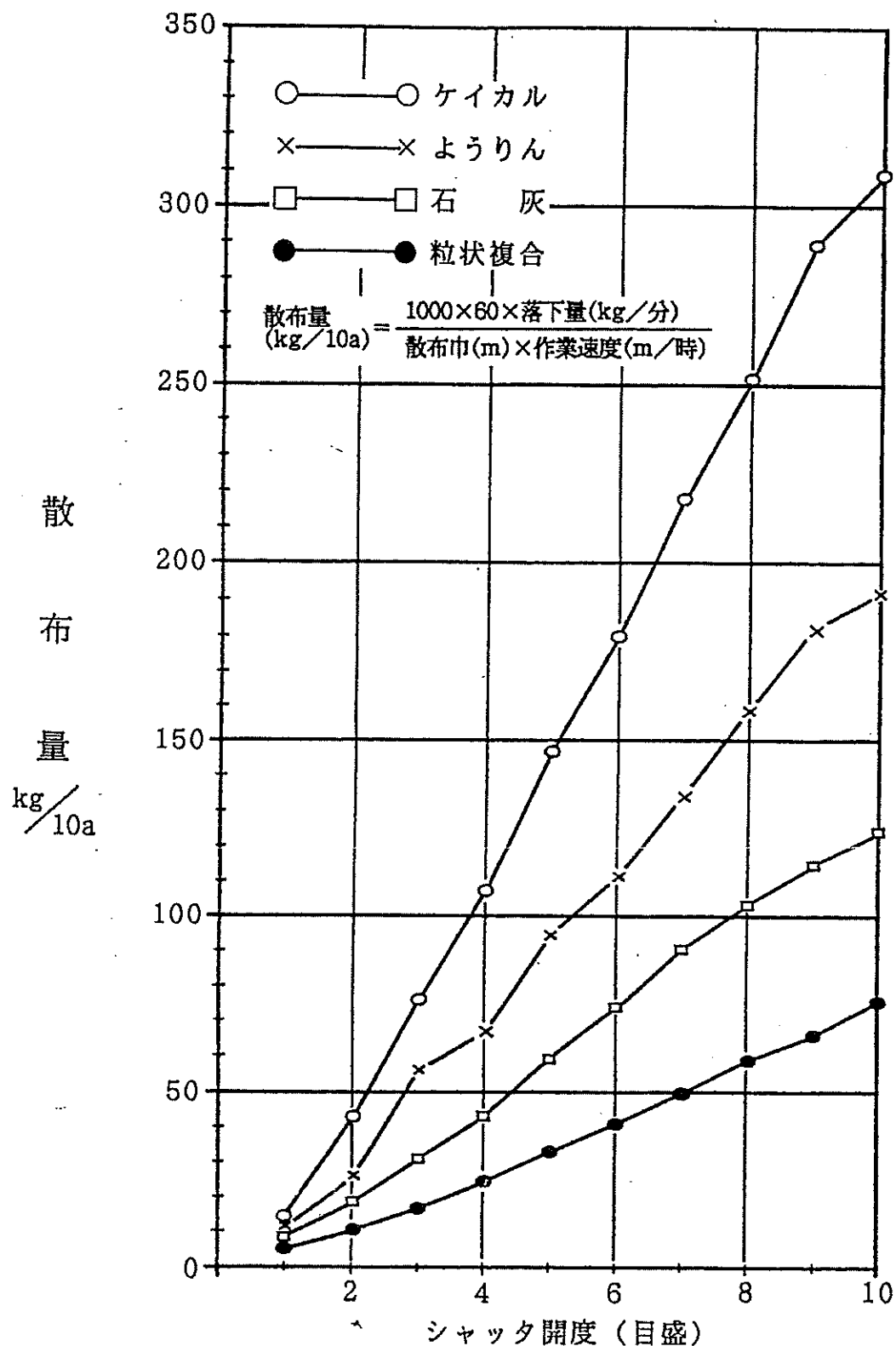
名 称		融 雪 剤 散 布 機		
型 式		JUS 2030		
性 能	走 行 速 度	低 速	1 (前進) 2 (前進) 3 (前進) R (前進)	3.3km/h 4.4km/h 5.7km/h 3.3km/h
		高 速	1 (前進) 2 (前進) 3 (前進) R (前進)	5.4km/h 7.0km/h 9.1km/h (移動用) 5.4km/h
	最 大 登 坂 角 度	20°		
	最 小 回 転 半 径	1.4m		
	散 布 幅	スピナ式 粉状3~5m 粒状6~14m ブロウ式 粉状最大20m		
	型 式	B & S モデル350400		
エンジン	最 高 出 力	18 PS		
	排 気 量	570cc		
	始 動 方 式	12V セルモータ		
	エンジンオイル	10W-30 容量1.6ℓ (オイルフィルタ込)		
	燃 料	無鉛ガソリン タンク容量15ℓ		
	スパークプラグ	チャンピオンRC12YC		
	バ ッ テ リ	NS40ZL (35Ah)		
機体使用	全 長	2,250 mm		
	全 幅	1,340 mm		
	全 高	1,290 mm		
	重 量	480 kg		
散 布 部	ホ ッ パ 容 量	200 ℓ (200kg)		
	スピナ回転数	500 r.p.m		
	ブロウ回転数	1,100 r.p.m		

保証について

お買い求めいただいた融雪剤散布機JUS 2030は、納入日より1年間の保証がついております。販売店より納入時にお渡ししました保証書は、アフターサービスをお受けいただくためにも大切に保存してください。

保証期間中であっても、保証書のご提示がありませんと有償サービスをお願いすることになりますのでご注意ください。

散布量曲線



※ 条件 作業速度 高速2速 (7.0km/h)
 作業巾 粒状複合は14m その他は4m
 表はスピナ作業に限る

※ 融雪剤及び肥料の水分状態・ホッパーの投入度合・天候状況により散布量は微妙に変化します
 ますので散布直前にテストしてから作業して下さい。

ブロワタイプとスピナタイプの切り替え

下記にブロワタイプよりスピナタイプへの切り替え手順を示します。

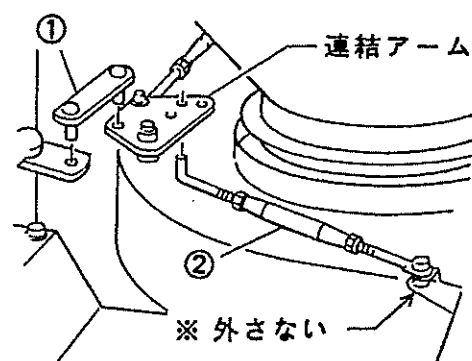
スピナタイプからブロワタイプへの切り替えは逆手順で行なってください。

■ ブロワタイプからスピナタイプの切り替え

1. シャッタ切替連結バー①、シャッタ切替連結

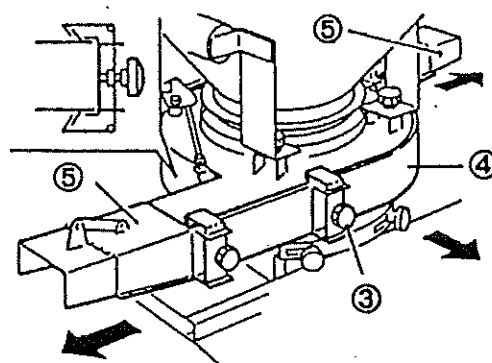
ロッド②を連結アームから外します。

シャッタ側はつけておいてください。



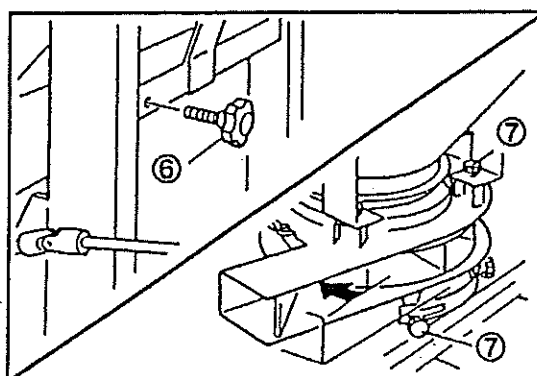
2. ノブボルト③をゆるめ (4個)、周側板 (後) ④、

散布管 (左右) ⑤を外します。



3. ノブボルト⑥をとり、ノブボルト⑦をゆるめ (4個)、ブロワケーシングを時計回りに長穴いっぱいまで振り、ノブボルト⑦を固く締めます。

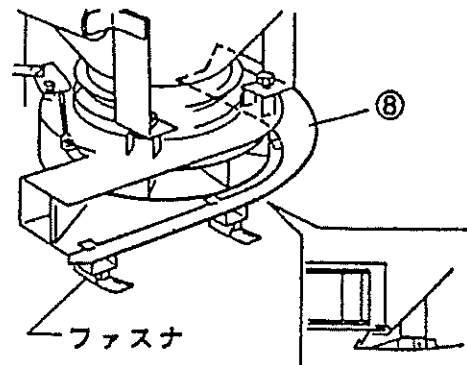
(ノブボルト⑥は、スピナタイプでは使用しません。)



4. 散布案内板⑧をブロウケーシング下の板にはさみ込み、ファスナで固定します。

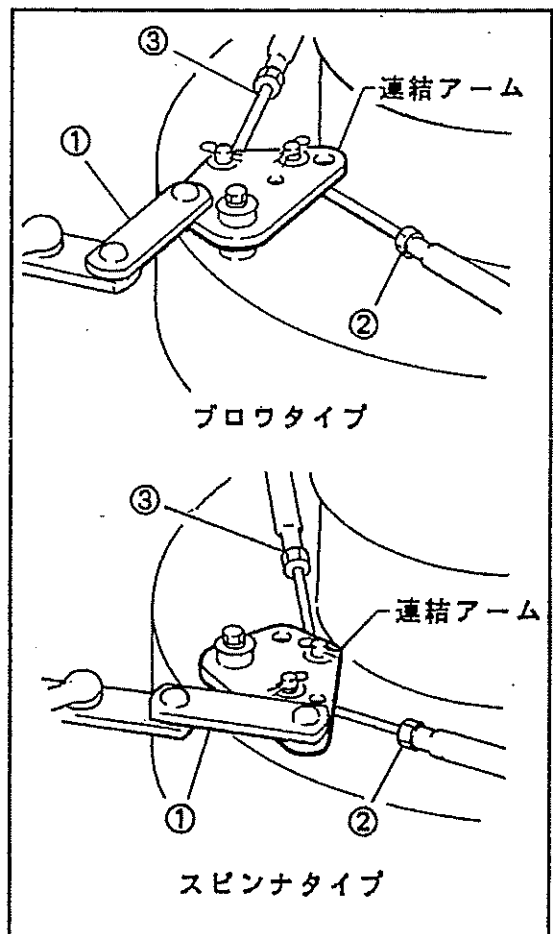
(4箇所)

(散布案内板⑧は、ブロウタイプでは使用しません。)



5. シャッタ切替連結バー①, シャッタ切替連結ロッド②を連結アームのスピナタイプの穴に、組付けます。(③はそのままです。)

スピナタイプの時、切替レバーは、使用しません。



6. ノブボルトやファスナ等の締付けを確認し、ブロウを手で回し、干渉のないことを確認してください。

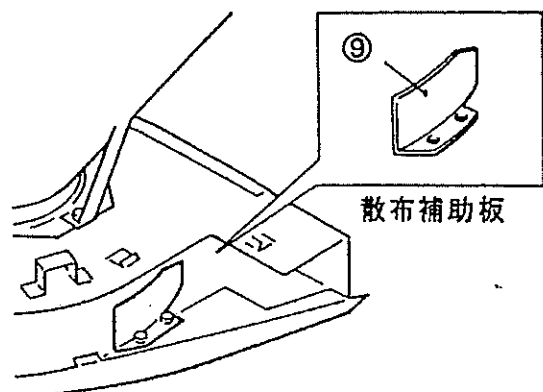
7. 散布作業でブロウタイプは粉状のみの散布に使用してください。その他の融雪剤はスピナタイプで使用してください。

又、粒状肥料散布の場合は散布案内板に散布補助板⑨の部品を右図の様に取付けて、散布クラッチレバー低速で散布してください。



注意

必ずエンジンを切ってから、作業してください。



調整

S-940214B

本 社	066	千 歳 市 上 長 都 1 0 6 1 番 地 2	TEL 0123-26-1123	FAX 0123-26-2412
小 山 事 業 所	307-02	栃 木 県 小 山 市 梁 2 5 1 2 - 1	TEL 0285-49-1400	FAX 0285-49-1410
千 歳 セ ン タ ー	066	千 歳 市 上 長 都 1 0 6 1 番 地 2	TEL 0123-26-1126	FAX 0123-23-0517
小 山 セ ン タ ー	307-02	栃 木 県 小 山 市 梁 2 5 1 2 - 1	TEL 0285-49-1430	FAX 0285-49-1440
札 幌 営 業 所	066	千 歳 市 上 長 都 1 0 6 1 番 地 2	TEL 0123-22-5131	FAX 0123-26-2035
旭 川 出 張 所	070	旭 川 市 神 楽 4 条 9 丁 目 3 番 3 1 号	TEL 0166-61-6131	FAX 0166-62-8985
豊 富 営 業 所	098-41	天 塩 郡 豊 富 町 字 上 サ ロ ベ ッ 1 1 9 1 番 地	TEL 0162-82-1932	FAX 0162-82-1696
帯 広 営 業 所	080-24	帯 広 市 西 2 2 条 北 1 丁 目 1 2 番 地	TEL 0155-37-3080	FAX 0155-37-5187
北 見 営 業 所	090	北 見 市 小 泉 3 0 2	TEL 0157-24-3880	FAX 0157-61-1344
中 標 津 営 業 所	086-11	標 津 郡 中 標 津 町 北 町 2 丁 目 1 6 番 2	TEL 01537-2-2624	FAX 01537-3-2540
盛 岡 営 業 所	020-01	岩 手 県 盛 岡 市 み た け 2 丁 目 4 番 7 号	TEL 0196-41-4811	FAX 0196-41-5529
仙 台 営 業 所	985	宮 城 県 多 賀 城 市 町 前 2 丁 目 8 7 番 地	TEL 022-367-4573	FAX 022-367-4846
関 東 営 業 所	307-02	栃 木 県 小 山 市 梁 2 5 1 2 - 1	TEL 0285-49-1500	FAX 0285-49-1560
名 古 屋 営 業 所	480-01	愛 知 県 丹 羽 郡 扶 桑 町 大 字 高 雄 字 南 屋 敷 1 9 1	TEL 0587-93-6888	FAX 0587-93-5416
松 本 出 張 所	399	長 野 県 松 本 市 芳 野 1 4 番 1 0 号	TEL 0263-27-0897	FAX 0263-27-1449
岡 山 営 業 所	700	岡 山 県 岡 山 市 下 中 野 7 0 4 - 1 0 3	TEL 086-243-1147	FAX 086-243-1269
熊 本 営 業 所	862	熊 本 県 熊 本 市 長 嶺 町 2 2 5 5 - 4 2 9	TEL 096-381-7222	FAX 096-384-3525
南 九 州 営 業 所	885	宮 崎 県 都 城 市 都 北 町 3 5 3 7 - 1	TEL 0986-38-1045	FAX 0986-38-4644